

市長あいさつ

～第2次小林市総合計画の策定にあたって～

平成18年3月の旧小林市、旧須木村の合併、平成22年3月の新小林市、旧野尻町の合併という歴史的な転換点を経たこの10年間は、第1次小林市総合計画に基づき、新小林市としての一体感の醸成と合併した3市町村の長所とその相乗効果を最大限に活かしたまちづくりを進めてまいりました。

この間社会情勢は、予想をはるかに上回る人口減少や少子高齢化社会の到来、東日本大震災や熊本地震などの大規模災害の発生、AI（人工知能）やIoT（モノのインターネット化）などを始めとする急速な情報社会の進展など、我が国全体が、これまでに経験したことのない大きな変換期を迎えています。また、地方自治体を取り巻く環境も、生産年齢人口の減少による税の減収、高齢化による社会保障費の増加、多様化・高度化する市民ニーズへの対応などの状況が複合的に絡み合い、地方の活力が失われつつあることから地方創生が叫ばれています。そうした中で、今を生きる私たちは、様々な課題に立ち向かい、次代に繋ぐ市政運営が求められています。

本市においては、人口減少により自治機能の維持が危ぶまれる状態になることを危惧し、平成18年度から協働のまちづくりの推進に向けた取組を始め、平成25年には、「小林市協働のまちづくり市民会議」の提言を基に「小林市まちづくり基本条例」を制定しました。市民が主体の協働のまちづくりは、着実に進展しています。

このように、本市を取り巻く状況やこれまでの取組を踏まえ、「小林市まちづくり基本条例」に掲げるまちづくりの基本理念を礎として、この度「第2次小林市総合計画」を策定いたしました。各主体が役割を理解しながら一体となり実現を目指すという協働の概念を基に、市民と行政の共有する目標として、「みんなでてなむ 笑顔あふれる じょじょんよかところ 小林市」を将来都市像とし推進を図ってまいります。

最後に、本計画の策定にあたり、小林市議会、小林市総合計画等審議会、約150名にもものぼる総合計画市民ワークショップの参加者、アンケート調査などを通じて貴重なご意見・ご提案をいただきました市民の皆様など、策定にご尽力をいただきました全ての方々に厚く感謝を申し上げます。

平成29年3月

小林市長 肥後正弘

